

北野の谷戸の自然環境

北野の谷戸の鳥類

堀井 達夫

(トトロのふるさと財団 調査委員会)

要旨

約 40 年振りに復田された北野の谷戸で見られる鳥類は、復田前と後でどのように変わったのだろうか。自然環境に大きく依存して生きている鳥達にどのように影響したのだろうか。2008 年の調査と比較してみた結果、何種かの鳥に変化が見られた。

キーワード: 復田; ガビチョウ; カルガモ; オオタカ; スズメ

はじめに

北野の谷戸の復田作業は 2009 年 12 月から開始された。おおよそ月 1 回のペースで作業を行ない、5 月に田植えをして 9 月には稲刈りを無事に終えることが出来た。

この谷戸の鳥類調査は 2008 年に実施しているが、復田前と後の谷戸で、そこに依存している鳥類にどのような変化があったのか調査した。

調査方法

調査期間は 2010 年 3 月から 12 月の 10 ヶ月間とし、月あたり 1 回から 3 回、谷戸の中であまり動き回らずに、午前中 1 時間の定点調査とした。双眼鏡を使用し視認と鳴き声 (地鳴き、さえずりなど) を重複カウントをしないように注意しながら記録した。

鳥の種毎の優占度と出現率はそれぞれ以下の式で算出した。

$$\text{優占度 (\%)} = \frac{\text{その種ののべ個体数}}{\text{全種ののべ個体数}} \times 100$$

$$\text{出現率 (\%)} = \frac{\text{その種の出現した日数}}{\text{総調査日数}} \times 100$$

結果と考察

記録された鳥類の種数は 34 種だった。(表 1)

優占度の大きい順をみると、ヒヨドリ > ハシブトガラス > メジロ > シジュウカラ > キジバト > ガビチョウ > ツバメ・ウグイスの順だった。(図 1)

2008 年に行った調査結果 (堀井 2009) と比較を行った。

1. 上位にスズメが入っていない。これは 2008 年調査は定点ではなく谷戸の上部から田んぼ候補地を通してゴルフ場までのルートセンサスであり、スズメは谷戸の上部の家庭菜園近くで観察されていたことに起因すると考えられる。しかし今回は、稲が実っている時でもスズメが殆ど見られなかった (図 1)(図 2)。

稲を作るにあたって、スズメ除けのネットを掛けることも検討したのであるが取り越し苦労だったこととなる。北野のスズメは稲を好まないのだろうか。

2. 2008 年に観察されず今回新たに観察された鳥は 7 種いたが (表 1) その中に、カルガモが入っているが 2 年前には無かった田んぼの開水面が出来たためにやってきたものだろう。
3. 猛禽類はどうだろうか。ノスリ、ハイタカ、オオタカが観察されているが中でもオオタカは 2008 年は出現率 49% だったが、今回は 20% と減少している (表 1)。復田作業の影響でこの近くに営巣しなくなったと考えられる。
4. 2008 年は上位に無く、今回 6 番目入ったのが外来種のガビチョウである。出現率を見ても 85% と高く (図 2) この谷戸に住み付き、更に数を増やしていることが分かる。生態的に藪を好む種なのに増えているということは、在来種に比べ繁殖力が強い、と言えるだろう。ウグイスなどの在来種への影響が懸念される。

以上、考察を述べたが、1 年間の短期調査だったが復田による影響はオオタカが減り、カルガモが新たに来て、更にガビチョウの増えていることが分かった。

今後も引き続き調査を継続し、野鳥から見た自然環境の変化に注視したい。

調査参加者 (敬称略)

大塚 隆廣、菊一 敦子

引用文献

堀井達夫 (2009) 北野の谷戸周辺の鳥類. トトロのふるさと財団自然環境調査報告書 6: 7-10

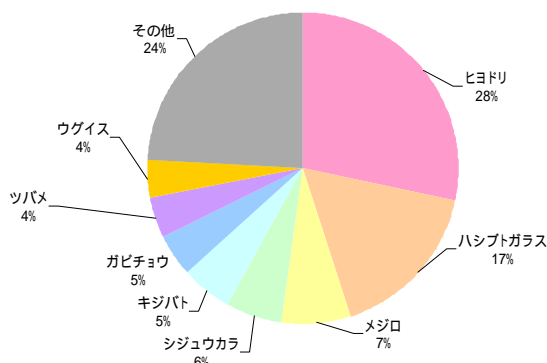


図 1 優占度

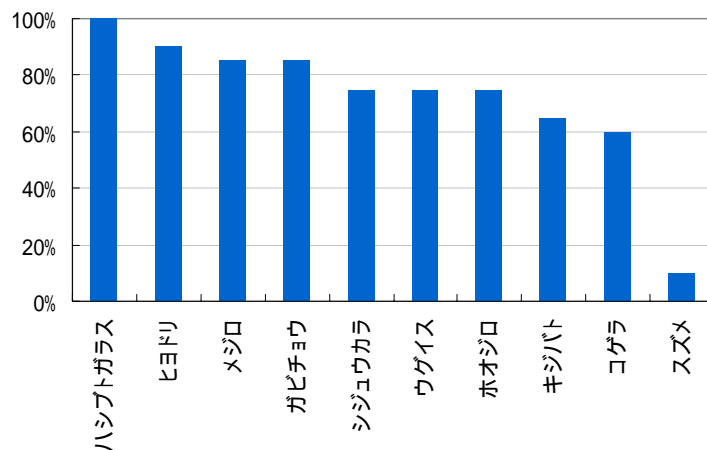


図 2 出現率

表 1 北野の谷戸で観察された鳥類

番号	種名	科名	3/3	3/30	4/13	4/26	4/30	5/9	6/1	6/10	6/27	7/18	8/11	8/22	9/7	9/20	10/18	11/11	11/21	12/1	12/5	12/9	種の計	観占度(%)	出現日数	出現率(%)
1	ノスリ	タカ	1																				1	0.14	1	5
2	ハイタカ	タカ		1																			1	0.14	1	5
3	オオタカ	タカ										1			1								4	0.56	4	20
4	カルガモ	カモ			1		2																4	0.56	3	15
5	キジバト	ハト	1	5	2	2	4	5	3	3	3	3	3		1	3						37	5.18	13	65	
6	ツツドリ	カッコウ						1															1	0.14	1	5
7	アオゲラ	キツツキ						1										1					3	0.42	3	15
8	アカゲラ	キツツキ																					1	0.14	1	5
9	コゲラ	キツツキ						3	3	1	1					1	6	1	2	1	1	1	22	3.08	12	60
10	ツバメ	ツバメ			1	6	3	5		3	6	4	1	1	1								30	4.20	9	45
11	キセキレイ	セキレイ													1								1	0.14	1	5
12	ヒヨドリ	ヒヨドリ	6	8	47	7	10	14	16	7	10	5	5	2	4		9	7	10	20	14	201	28.15	18	90	
13	モズ	モズ															1						2	0.28	2	10
14	センダイムシクイ	ヒタキ						1															1	0.14	1	5
15	シロハラ	ヒタキ	1	1	2																		6	0.84	5	25
16	ジョウビタキ	ヒタキ																		2	1	1	4	0.56	3	15
17	ツグミ	ヒタキ	2		1	3													5	2	1	14	1.96	6	30	
18	ウグイス	ヒタキ	2		1	3	2	2	1	1	2	1			1	5	2			1	2	28	3.92	15	75	
19	エナガ	エナガ	2		2	2	1					7											16	2.24	6	30
20	ヤマゲラ	シジュウカラ																					7	0.98	4	20
21	シジュウカラ	シジュウカラ	1	3	2	1	5	4	4	2		4	1			2	3	1		3	5	41	5.74	15	75	
22	メジロ	メジロ	1	1	2	3	2	1		2	2	4	1	2	3		9	2	3	7	4	4	51	7.14	17	85
23	ホオジロ	ホオジロ	1	1	1	2	1	1	1	2	1	1	1			1						18	2.52	15	75	
24	カシラダカ	ホオジロ	9															2					11	1.54	2	10
25	アオジ	ホオジロ																					9	1.26	4	20
26	イカル	アトリ																					3	0.42	1	5
27	シメ	アトリ																					4	0.56	2	10
28	スズメ	ハタオリドリ																					2	0.28	2	10
29	ムクドリ	ムクドリ	6			1	1		1		1												10	1.40	5	25
30	カケス	カラス	1	2															4				8	1.12	4	20
31	オナガ	カラス	1																				2	0.28	2	10
32	ハシブトガラス	カラス	1	7	7	10	4	4	7	3	3	5	7	3	4	2	14	8	7	5	14	6	121	16.95	20	100
33	コジュケイ	キジ		1		2	3	2	2		1			1		1	2	1	2				18	2.52	11	55
34	カビチャウ	チメドリ	2	2	4	2	3	1	2	2	2		1		1	1	2	4	1	1		32	4.48	17	85	
種数の計			15	33	12	15	14	16	13	10	10	11	11	8	5	7	7	11	9	13	10	14	16	34		
羽数の計			37	33	74	46	47	44	44	40	23	28	38	23	9	15	9	47	30	36	33	58	44	714	100.00	

印は2008年調査には見られなかった種